島根大学教育学部紀要（人文・社会科学）第25巻　17頁－31頁　平成３年12月

# 初期言語発達イベントリー信頼性の検討

小椋たみ子*・山下由紀恵**・村瀬　俊樹***

Tamiko OGURA, Yukie YAMASHITA and Toshiki MURASE

# The Reliability of Early Language Development Inventory

**ABSTRACT**

Parent report can provide valuable informations on early child language development. In this paper we introduced the first Japanese version of Early Laguage Development Inventory adapted from MacArthur Communicative Development Inventories( Fenson et al., 1991) and examined the internal consistency for each scale through 670 data of the children from the age of 8 months to 36 months.
The items with low occurrence percentage and low corrected item-total correlations were found.
The scales of ' First communicative gestures' and ' Games and routines' were combined and factor analyzed. Two factors of "Interactive acts "and "Declarative acts "were extracted.
We will revise this inventory dividing into two forms－the infant from( 8-20 months) and toddler form－on the basis of the results of the present study in the next step.

## 問　題

親の報告をもとに子供の初期言語発達を評価する有用な道具として、サンディエゴ市立大学のFenson, L.，ワシントン大学のDale, P. を中心に英語圏の子どもを対象としたMacArthur Communicative Development Inventory の開発の作業が行われている( Fenson, Thal, Reilly, Vella & Guisti, 1988; Fenson, Dale, Reznik, Thal, Bates, Reilly & Hartung, 1991a; 1991b, Thal & Dale, 1991)。

子どもの初期言語の評価は構造化された検査、言語サンプルの収集，親の報告の３つの方法でなされてきた。検査は幼い子どもを検査場面に適応させるのがむつかしい。また熟練した検査者が必要である。日本では初期言語を評価する信頼性と妥当性の高い検査が開発されているとはいいがたい。言語サンプルの収集は子どもの言語表出が場面やかかわる人に左右され、また分析には多大な時間を要する。ここでとりあげていく親の報告は，スクリーニングの方法として広く用いられてきた。親は子どもと日常生活をともにし，他の誰よりも子どもについての情報を沢山もっており，言語についてもより広い評価を行うことができる。しかし親のもつ自然な子どもへの期待やプライドから，過大な評価がなされることも事実である。親の報告の利点として，Dale ( in press) はつぎの５つをあげている。第一に子どもは自分の慣れた場所で自分が話したいことを話し，親により観察される。従って親の報告は実験室場面より子どもの言語を代表している。第二に直接の臨床観察より語の使用頻度のような遂行要因による影響が少ない。親の報告は子どもが知っていることを反映し，一方自由な言語サンプルは子どもの実際の使用を反映している。第三に臨床や教育場面で，スクリーニングの目的で迅速に費用がかからず子どもの言語の一般的評価ができる。第四に臨床家が実際に子ど

＊島根大学教育学部障害児研究室
＊＊島根県立島根女子短期大学保育科
＊＊＊島根大学法学部心理学研究室

もをみる前に親の報告が得られ，その結果から詳しい検査として何が必要かを明らかにできる。第五に親の報告は臨床や実験室外の文脈での行動に基づいているので，療育，教育の結果の変化を知るのに役立つ。インベントリー（チェックリスト）は再認の形式を用いているので，親が見過ごしたり，忘れているかもしれない項目が刺激となり，親が子どもの能力についての知識を整理するにも役立つ。

MacArthur Communicative Development Inventories は幾たびかの改訂をへて，現在８－16カ月を対象としたInfant版と16－30カ月を対象としたToddler 版が発表されている。Infant版は，19 の意味カテゴリー426語からなる表出と理解についての語彙チェックリストをふくむ初期言語の部と，身振りと行為の部で構成されている。身振りと行為の部では言語発達を前言語期の大人との身振りでのコミュニュケーションから発達してくるものとしてとらえ，意図的コミュニュケーションの身振りや儀式化された身振りや大人との相互交渉のゲームの項目が含まれている。また言語発達に必要な外界の事物や人の認識の発達を評価するために，大人の行動の模倣や事物の用途的使用の項目や人形へのふり遊び，みたて遊びの象徴行動の項目が含まれている。Toddler 版は二部からなり，第一部は22の意味カテゴリー680 語からなる表出についての語彙チェックリストと，外界世界を表象する能力の重要な指標となる過去，将来，現前しない事物，事象への言及についての５項目からなっている。第二部は形態素と統語能力の発達と名詞／代名詞型を評価する125 項目からなっている。

米国ではNew Haven, Seattle, San Diego の３地域からInfant版は女児321 名，男児308 名，Toddler版は女児522 名，男児534 名のデータが収集され，標準化の作業が進行中である。また妥当性の検討もされている。Bates et al. (1988) は20ヶ月児の観察での言語サンプルでの語彙数，MLUと、親の報告での語彙数との高い相関，また20カ月時点での親の報告での語彙数と28カ月でのピーボディ絵画語彙検査との相関を報告している。Dale et al. (1989) は語彙メジャーの妥当性について20ヶ月の時点での語彙チェックリスト（1984年版）の語彙のサイズと20ヶ月，24ヶ月でのベイレイ乳幼児発達検査のMDI (Mental Development Index)，受容言語得点，表出言語得点，受容・表出合計得点との高い相関を報告している。Dale(in press) は、MacArthur Communicative Development Inventory: Toddlers版の語彙とsyntaxの発達の項目についての妥当性の検討を24カ月児24名について行っている。それによるとインベントリーのメジャーと，20分間の遊びでの言語サンプルからのメジャー，Expressive One word Picture Vocabulary Test，スタッフォードビネー知能検査の下位テストのMemory for Sentences, Sequenced Inventory of Communicative Development のいくつかの項目についての実験室での評価との高い相関が報告されている。これらの妥当性の検討は語彙とsyntaxについてである。

MacArthur Communicative Development Inventoryは言語発達の基盤となる相互交渉性，事物操作，みたて遊びや模倣の象徴能力の評価も可能で，ことばの発達の遅れた子供の診断にも大変有効であると予想される。われわれは，臨床的にも基礎研究においても初期言語についての重要な資料を提供することが期待できるこのインベントリーの日本語版作成は意義あるものと考え，1989年より日本語版開発の作業をすすめてきた。なおスペイン語版，イタリー語版の作成も行われている。

本研究では、日本語第一版の紹介と松江市の親に実施した調査結果から項目分析と年齢推移について報告し，このインベントリーの適用年齢と，より精度の高いインベントリー作成のための検討をおこなう。

## 方　法

**日本語版の内容:** 米国版のInfant用（８－16カ月）とToddlers用（16－30カ月）を一体化し，日本語に適用できない「文と文法の部」を除外し，また項目内容，回答方法を一部改訂し，初期言語発達インベントリーを作成した。「行為と身振りの部」と「ことばの部」の２部から構成されている。

「行為と身振りの部」は'身振りでのコミュニケーション'14項目，'社会的ゲーム'６項目，'事物への慣用的身振り'18項目，'人形への身振り'13項目，'大人のしぐさのまね'16項目，'代置のみたて遊び'（米国版は子供のおこなう代置のみたてあそびを自由記述してもらうが，日本語版では自由記述のほかに，"つみきを____にみたてる"のように子供が，他にあき箱，砂，紙，洗面器を何にみたてるかを尋ねた）の６領域がある。米国版では「行為と身振りの部」は８－16ヶ月のInfant版だけにある。

「ことばの部」は'理解の最初のサイン'３項目（米国版はInfant版のみ），'フレーズの理解'27項目（米国版はInfant版のみ），'ことばのはなしはじめ'２項目（米国版はInfant版のみ），'語彙チェックリスト'（19のカテゴリー（擬音語・幼児語17語，動物の名前34語，乗物12語，おもちゃ８語，食べ物と飲物49語，衣類19語，体

の部分22語，家具と部屋27語，家庭用品40語，戸外のもの33語，人々19語，日課とあいさつ24語，動作語54語，時間14語，性質42語，代名詞17語，質問７語，場所・位置20語，数量17語）の475 語で構成されている（米国版はInfant版とToddler 版の両方に語彙チェックリストはあるが語彙が異なっている）），'語結合'（単語＋助詞，二語発話，三語発話）（米国版にはない），'ことばのつかい方'（過去，未来，現存しない事物，事象についての言及の５項目）（米国版はToddler 版のみ）からなっている。

回答は項目により異なり，４段階（まだしない，時々する，しばしばする，以前はしたがいまはしない），３段階（まだいわない，時々いう，しばしばいう），２段階（はい，いいえ）の評定を求めた。

語彙チェックリストは各語に対して，リストのことばを親がどのように日常生活で子どもに言っているか「お母さんの言い方」の記述を求め，親がそのことばを表出した場合，子どもがそのことばを理解しているかについて○，×を求めた。次に子どもが言うか否かの○，×と，どのようにそれを子どもが表出するか「お子さんの言い方」の記述を求めた。さらにリストのことばを子どもが見たり，聞いたりしたことがない場合に○をつける欄ももうけた。

**調査対象**：松江市内の８カ月－36カ月の保育園児670名。保育所を通し保護者への配布と回収を行った。回収された各月齢毎の人数はTable 1 に示す通りで各月齢10－32名であった。月齢の算出方法は記入年月日から誕生日をひき、日数は15捨16入で１カ月とした。

**分析方法**：「行為と身振りの部」，「ことばの部」とも０，１型データとして処理した。語彙チェックリストについては各語彙についての理解，表出についての○の数のみ下位カテゴリー毎に合計した。以下にデータ処理の方法を述べた。

**（Ⅰ）行為と身振りの部**

（１）各項目について各月齢毎の通過率を算出し，男女こみで36カ月までに80％の出現率に達しない項目を抽出した。これらの項目を除き，各領域毎に各項目とその項目を除いた尺度得点との相関（corrected item-total correlation, 以下相関と記す），及び$\alpha$係数を８－16ヶ月と11－20ヶ月，８－20ヶ月の三つの年齢幅で算出した。これは，８－16ヶ月は，米国版の行為と身振りの部の適用年齢がこの範囲であるためである。また11－20ヶ月は小椋・村瀬・山下（1991）で，身振りの部の多くの領域の得点が11ヶ月から上昇し20ヶ月で天井効果を示していたからである。

Table 1 サンプルの内訳

| 月　齢 | 人　数 | 月 齢 | 人　数 |
|---|---|---|---|
| ８ケ月 | 10 | 23ケ月 | 25 |
| ９ケ月 | 16 | 24ケ月 | 23 |
| 10ケ月 | 16 | 25ケ月 | 23 |
| 11ケ月 | 25 | 26ケ月 | 30 |
| 12ケ月 | 29 | 27ケ月 | 20 |
| 13ケ月 | 16 | 28ケ月 | 25 |
| 14ケ月 | 29 | 29ケ月 | 29 |
| 15ケ月 | 23 | 30ケ月 | 15 |
| 16ケ月 | 26 | 31ケ月 | 26 |
| 17ケ月 | 18 | 32ケ月 | 20 |
| 18ケ月 | 27 | 33ケ月 | 31 |
| 19ケ月 | 21 | 34ケ月 | 22 |
| 20ケ月 | 24 | 35ケ月 | 27 |
| 21ケ月 | 32 | 36ケ月 | 19 |
| 22ケ月 | 23 | | |
| | | 合　計 | 670 |

（２）８－20ヶ月の項目－総得点の相関が．400以下の項目を除いて各領域毎の合計点を算出し，年齢推移を明らかにした。

（３）'身振りでのコミュニケーション'と'ゲーム'の領域を一緒にして，８－16，11－20ヶ月のデータについて因子分析を行い，因子を抽出した。

**（II）ことばの部**

（１）'理解の最初のサイン'，'フレーズの理解'，'はなしはじめ'，'ことばの使い方'，'語結合'の各項目の出現率を算出した。各項目とその項目を除いた尺度得点との相関，$\alpha$係数を'フレーズの理解'について８－16，11－20，８－20ヶ月で，'ことばの使いかた'については８－16，11－20，16－30ヶ月（米国のToddler 版の適用年齢）の年齢幅で算出した。

（２）'語彙チェックリスト'については下位カテゴリー別と全カテゴリー込みの語彙総数の平均値を理解と表出について各月令毎に算出した。理解と表出について各下位カテゴリーの得点と総得点の相関と$\alpha$係数を８－16ヶ月，11－20ヶ月，16－30ヶ月（米国のToddler 版の適用年齢）について算出した。

## 結果と考察

**（Ⅰ）行為と身振りの部**

**（１）低い出現率の項目**

男女こみで36ヶ月までに80％の出現率に達しない項目をTable ２に示した。

出現率の低い項目は年齢にともない上昇傾向が認められない項目であり，よって改訂版作成のさいには削除されるべき項目である。このような項目が'人形への身振

Table 2 36ヵ月までに80%の出現率に達しなかった項目とそれらの項目の16ヵ月時点での日米の出現率　(%)

| | 項目No. | 項　　目 | 日　本 | 米　国 * |
|---|---|---|---|---|
| 人形への身振り | W 3 | ぬいぐるみの動物あるいは人形に哺乳瓶でのませる。 | 7.7 | 38 |
| | W 6 | ぬいぐるみの動物あるいは人形を軽くたたいたりあるいは背中をさすったりしてげっぷをさせる。 | 3.8 | 34 |
| | W 7 | 乳母車にぬいぐるみの動物あるいは人形をいれて押す。 | 23.1 | 57 |
| | W10 | ぬいぐるみや人形にくつやソックスやぼうしをはかせようとする。 | 7.7 | 39 |
| | W11 | ぬいぐるみや人形の顔や手をふく。 | 0 | 15 |
| | W13 | ぬいぐるみや人形におむつをつけようとする。 | 3.8 | 14 |
| まね | X 4 | のこぎりをつかおうとする。 | 0 | 5 |
| | X 5 | タイプライターやワープロのキイを“うつ”。 | 34.6 | 51 |
| | X11 | お皿を洗う。 | 3.8 | 22 |
| | X16 | たばこをすうまねをする。 | / | / |

＊米国のデータの16ヵ月児は16ヵ月0日－16ヵ月31日である。

り’と’大人のしぐさのまね’の領域でみられた。

’人形への身振り’の領域の13項目のうち6項目は男女こみで3歳になっても出現率が80%に達しなかった。また出現率に男女差があり，男児で3歳までに80%の出現率に達しない項目は7，女児で1であった。日本においては人形遊びは女児の多くが行う遊びでありこの傾向が本研究の結果にあらわれたものであろう。’人形への身振り’の男女差が日本の子供の文化的特徴か否かは大変興味ある問題である。米国のFenson et al.(1991a; 1991b)の米国版の資料は，「身振りと行為の部」が8－16ヶ月のInfant版だけなので3歳までの年齢推移は米国の資料にはない。8－16ヶ月までについて日本で出現率の低かった項目を日米で比較してみると，’人形への身振り’の各項目の出現率は16ヶ月で”kiss or hug it”（日本版は，（W9）人形をだっこしたりおんぶしたりする）が89%（日本61.5%）以外は14－57%の出現率で米国でも低い。日本で3歳時点で80%に達しなかった項目についてだけ16ヶ月時点での日米の出現率をTable 2に示した。すべての項目で16ヶ月の時点では米国は日本にくらべ高い出現率である。

’大人のしぐさのまね’は16項目中，4項目の出現率が3歳までに80%に達しなかった。これらの項目はX4（のこぎりをつかおうとする），X5（ワープロのキーをうつ）のように日本の家庭生活で大人があまり行わな

Table 3 事物への慣用的身振り領域の項目－総得点（その項目を除いた）の相関とα係数

| 項目NO. | 項　目　内　容 | 相　関 (8－16)* | 相　関 (11－20)* | 相　関 (8－20)* |
|---|---|---|---|---|
| V 1 | スプーンやフォークやはしでたべる。たべようとする。 | .613 | .471 | .628 |
| V 2 | 飲み物が入ったコップからのむ。のもうとする。 | .430 | .282 | .425 |
| V 3 | 自分の髪をくしやブラシでとかす。とかそうとする。 | .691 | .632 | .734 |
| V 4 | 歯をみがく。みがこうとする。 | .624 | .598 | .709 |
| V 5 | タオルや布で手や顔をふく。ふこうとする。 | .657 | .715 | .750 |
| V 6 | ぼうしをかぶる。かぶろうとする。 | .611 | .670 | .737 |
| V 7 | くつあるいはソックスをはく。はこうとする。 | .684 | .755 | .781 |
| V 8 | ネックレスや腕時計をつける。つけようとする。 | .504 | .559 | .576 |
| V 9 | ねむっているように手の上に頭をおき目を閉じる。 | .317 | .370 | .430 |
| V10 | なにかがあついのを示すのに吹く。 | .556 | .675 | .724 |
| V11 | 飛行機をもってそれを“とばす”。 | .051 | .358 | .367 |
| V12 | 耳に電話をもっていく。 | .705 | .628 | .742 |
| V13 | 花のにおいをかぐ。 | .322 | .436 | .450 |
| V14 | おもちゃの自動車あるいはトラックをおす。 | .550 | .330 | .537 |
| V15 | ボールを投げる。 | .631 | .527 | .672 |
| V16 | 1つの容器からもう1つの容器へなにかをそそぐふりをする。 | .591 | .655 | .729 |
| V17 | スプーンでカップやなべの中のなにかをかきまぜるふりをする。 | .673 | .536 | .685 |
| V18 | パンツをはく。はこうとする。 | .468 | .640 | .645 |
| α係数 | | .903 | .903 | .932 |
| (ケース数) | | (177) | (208) | (263) |

＊月齢

Table 4 人形への身振りの領域－総得点（その項目を除いた）の相関とα係数

| 項目NO. | 項目内容 | 相関 (8－16)* | 相関 (11－20)* | 相関 (8－20)* |
|---|---|---|---|---|
| W1 | ぬいぐるみの動物あるいは人形をベットや布団におく。 | .652 | .669 | .685 |
| W2 | ぬいぐるみの動物あるいは人形に毛布をかける。 | .558 | .657 | .667 |
| W4 | ぬいぐるみの動物あるいは人形にスプーンでたべさせる。 | .429 | .552 | .571 |
| W5 | ぬいぐるみの動物あるいは人形の髪をくしやブラシでとかす。 | .372 | .516 | .529 |
| W8 | ぬいぐるみや人形をゆする。 | .505 | .475 | .482 |
| W9 | ぬいぐるみや人形をだっこしたりおんぶしたりする。 | .571 | .562 | .592 |
| W12 | ぬいぐるみや人形に話しかける。 | .286 | .535 | .530 |
| α係数 (ケース数) | | .749 (183) | .821 (230) | .827 (271) |

＊月齢

Table 5 大人のしぐさのまねの領域の項目－総得点（その項目を除いた）の相関とα係数

| 項目NO. | 項目内容 | 相関 (8－16)* | 相関 (11－20)* | 相関 (8－20)* |
|---|---|---|---|---|
| X 1 | ほうきあるいはモップではく。 | .609 | .710 | .743 |
| X 2 | 戸にかぎをかけたり錠をかけたりしようとする。 | .501 | .572 | .610 |
| X 3 | 金づちや小づちでたたく。 | .463 | .400 | .451 |
| X 6 | “よむ”（本を開く、ページをめくる）。 | .652 | .528 | .623 |
| X 7 | そうじ機をかける。 | .554 | .618 | .665 |
| X 8 | 植木に水をやる。 | .286 | .457 | .465 |
| X 9 | 楽器をひこうとする（たとえばピアノ、トランペット）。 | .589 | .523 | .612 |
| X10 | 自動車のハンドルをまわして車を“運転する”。 | .531 | .562 | .646 |
| X12 | 布やぞうきんでそうじをする。 | .521 | .588 | .632 |
| X13 | ペンや鉛筆やボールペンでかこうとする。 | .670 | .626 | .705 |
| X14 | シャベルで掘ろうとする。 | .582 | .636 | .678 |
| X15 | めがねをかける。 | .411 | .498 | .543 |
| α係数 (ケース数) | | .858 (182) | .872 (231) | .898 (270) |

＊月齢

Table 6 ゲームの領域の項目－総得点（その項目を除いた）の相関とα係数

| 項目NO. | 項目内容 | 相関 (8－16)* | 相関 (11－20)* | 相関 (8－20)* |
|---|---|---|---|---|
| U 1 | イナイナイバーをする。 | .467 | .353 | .484 |
| U 2 | オツムテンテンをする。 | .485 | .318 | .445 |
| U 3 | ボールを子どもへころがすと返してくる。 | .453 | .358 | .521 |
| U 4 | おいかけっこをする。 | .488 | .436 | .585 |
| U 5 | 歌う。 | .341 | .335 | .398 |
| U 6 | 踊る。 | .529 | .486 | .590 |
| α係数 (ケース数) | | .727 (176) | .649 (225) | .762 (264) |

＊月齢

い項目と，X16（たばこをすう），X11（お皿を洗う）のように危険をともなう項目であった。これらの項目の16ヶ月時点の出現率を米国と日本で比べると（Table 2），X5（ワープロのキーをうつ）以外は米国でも低い出現率であった。

「行為と身振りの部」の他の領域の項目で3歳までに80%の出現率に達しない項目はなかった。

**（2）内的整合的信頼性**

各領域毎に8－16ヶ月，11－20ヶ月，8－20ヶ月の項目－尺度得点の相関係数とα係数をTable 3－Table 7に示した。「行為と身振りの部」のすべての領域で，8－16ヶ月の低い年齢幅と11－20ヶ月の高い年齢幅，両者をこみにした8－20ヶ月とも.649－.932の高いα係数がえられた。

各領域毎にα係数と項目－尺度得点の相関が.400以下の項目を以下にみてみる。

’事物への慣用的身振り’（Table 3）では，α係数は8－20ヶ月が.932で，8－16ヶ月，11－20ヶ月は両方とも.903であった。V9（ねむっているように手の上に頭をおき目を閉じる）とV11（飛行機をもってそれをとばす）の項目が8－16，11－20ヶ月とも.400以下の相関係数であった。8－20ヶ月ではV9は.430で，V11

Table 7 身振りでのコミュニケーションの領域の項目－総得点（その項目を除いた）の相関とα係数

| 項目NO. | 項目内容 | 相関 (8－16)* | 相関 (11－20)* | 相関 (8－20)* |
|---|---|---|---|---|
| T 1 | 自分がもっているものをあなたにみせるのに腕をのばす。 | .604 | .300 | .590 |
| T 2 | 自分がもっているおもちゃやものをあなたに差しだしたり、わたしたりする。 | .610 | .392 | .617 |
| T 3 | あるおもしろいものや出来事に（腕や人さし指を伸ばして）指さしする。 | .670 | .469 | .677 |
| T 4 | だれかがはなれた時、自分からバイバイする。 | .541 | .468 | .595 |
| T 5 | だきあげてもらいたくて自分の腕を上にのばす。 | .313 | | .305 |
| T 6 | 頭をふって“イヤイヤ”を示す。 | .510 | .392 | .555 |
| T 7 | うなずいて“はい”を示す。 | .546 | .606 | .647 |
| T 8 | 唇に指をおいて“シーッ”の身振りをする。 | .380 | .436 | .434 |
| T 9 | 腕をのばしたり、手をあわせて“チョーダイ”の身振りをして物をほしがる。 | .556 | .511 | .633 |
| T10 | うながされればおじぎをする。 | .605 | .450 | .616 |
| T11 | 「バンザイ」というと両手をあげる。 | .550 | .439 | .621 |
| T12 | なにかがおかしいことを示すのに“パクパク”と口を動かす身振りをして口唇を舌打ちする。 | .257 | .279 | .294 |
| T13 | “ナイナイ”とか“どこにいったんだろう”を示すのに首をかしげる。 | .382 | .466 | .494 |
| T14 | 本を見ていて「____はどれ？」と問われるとその絵を指さしますか。 | .456 | .523 | .569 |
| α係数 (ケース数) | | .852 (181) | .803 (227) | .877 (267) |

＊月齢

のみ.367 であった。8－16ヶ月ではV13（花のにおいをかぐ），11－20ヶ月ではV2（飲物が入ったコップからのむ）とV14（おもちゃの自動車あるいはトラックをおす）の項目の相関係数が低かった。V11 の20ヶ月時の出現率は低く33.3%で、80%を越えるのは26ヶ月であった。この領域の適用範囲を20ヶ月までとするならこのV11 の項目は事物への慣用的身振りの項目として適切でないといえる。またV9の項目は事物への身振りといえるか疑問である。11－20ヶ月だけ相関が低かった，V2（コップから飲む），V14（おもちゃの自動車をおす）は11，12ヶ月で80%の出現率を越えている項目で高い年齢の子供には殆ど出現しているので項目－尺度得点との相関が低くなっている。

'人形への身振り'（Table 4）では，α係数は8－20ヶ月が.827，11－20ヶ月が.821，8－16ヶ月が.749で11－20ヶ月のほうが8－16ヶ月よりα係数が高かった。11－20ヶ月と8－20ヶ月では相関係数は.400 以下の項目はなかった。8－16ヶ月では'人形への身振り'ではW5（ぬいぐるみの動物あるいは人形の髪をくしやブラシでとかす），W12(ぬいぐるみや人形に話しかける）の項目の相関係数が.400以下で低かった。

'大人のしぐさのまね'（Table 5）では，α係数が8－20ヶ月が.898，11－20ヶ月で.872，8－16ヶ月が.858 であった。相関係数は，X8（植木に水をやる）が8－16ヶ月で.400 以下であった。'人形への身振り'，'大人のしぐさのまね'の領域は11－20ヶ月のほうが8－16ヶ月よりα係数が高く，相関も.400 以下の項目がなく，高い年齢幅に適した領域といえる。

'ゲーム'（Table 6）では，すべての年齢幅で相関が低い項目はU5（歌う）であった。8－16ヶ月では相関の低い項目はこのU5以外なかった。11－20ヶ月ではU1（イナイイナイバー），U2（オツムテンテン），U3（ボールをころがす）の項目の相関が.400以下であった。これらの項目は16ヶ月の時点で80%の出現率があった。

'身振りでのコミュニケーション（Table 7）のα係数は8－20ヶ月で.877，8－16ヶ月で.852，11－20ヶ月で.803 で，8－16ヶ月のほうが11－20ヶ月より高かった。すべての年齢幅で共通に.400 以下の項目は，T12（なにかがおいしいことを示すのに"パクパク"と口を動かす身振りをして口唇を舌うちする）であった。この項目は9ヶ月で62.5%の出現率がありその後60－80%の出現率で年齢変化の少ない項目である。11－20ヶ月ではT1（みせる），T2（わたす），T6（頭をふって"イヤイヤ"を示す）の項目の相関係数が低かった。8－16ヶ月では，T8（唇に指をおいて"シーッ"の身振りをする），T13（"ナイナイ"とか"どこにいったんだろう"を示すのに首をかしげる），T5（だきあげてもらいたくて自分の腕を上にのばす）であった。T5は11ヶ月で100 %の出現率に達し年齢変化がみられなかった。身振りでのコミュニケーションのみせる，わたす等の相互交渉の身振りの項目は低い年齢幅に達し，T8（シーッの身振り）やT13（"ナイナイ"とか"どこにいったんだろう"を示すのに首をかしげる）等の叙述の身振りは高い年齢幅に適した項目である。

**（3）因子分析**

'ゲーム'の領域に身振りでの遊びの項目が含まれてい

Table 8 身振りでのコミュニケーションとゲームの因子分析の結果（回転後）

| NO. | 項　　目 | 8－16ヶ月 F1 | F2 | F3 | Cmmunality | 11－20ヶ月 F1 | F2 | F3 | F4 | Cmmunality |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| T 1 | 自分がもっているものをあなたにみせるのに腕をのばす。 | .725 | .163 | .147 | .574 | .094 | .209 | .056 | .779 | .663 |
| T 2 | 自分がもっているおもちゃやものをあなたに差しだしたり、わたしたりする。 | .798 | .122 | .127 | .668 | .050 | .437 | .234 | .378 | .392 |
| T 3 | あるおもしろいものや出来事に（腕や人さし指を伸ばして）指さしする。 | .682 | .247 | .306 | .620 | .111 | .708 | .179 | .233 | .600 |
| T 4 | だれかがはなれた時、自分からバイバイする。 | .460 | .276 | .290 | .372 | .273 | .459 | .238 | .104 | .353 |
| T 5 | だきあげてもらいたくて自分の腕を上にのばす。 | .328 | .012 | .171 | .137 | | | | | |
| T 6 | 頭をふって“イヤイヤ”を示す。 | .304 | .108 | .616 | .484 | .268 | .224 | .264 | .046 | .194 |
| T 7 | うなずいて“はい”を示す。 | .235 | .510 | .328 | .423 | .595 | .160 | .345 | .090 | .507 |
| T 8 | 唇に指をおいて“シーッ”の身振りをする。 | .044 | .610 | .138 | .394 | .596 | .071 | .080 | .102 | .377 |
| T 9 | 腕をのばしたり、手をあわせて“チョーダイ”の身振りをして物をほしがる。 | .304 | .321 | .452 | .400 | .434 | .324 | .208 | .108 | .348 |
| T10 | うながされればおじぎをする。 | .504 | .251 | .383 | .465 | .158 | .129 | .747 | .165 | .627 |
| T11 | 「バンザイ」というと両手をあげる。 | .487 | .392 | .149 | .413 | .324 | .259 | .350 | －.038 | .296 |
| T12 | なにかがおいしいことを示すのに“パクパク”と口を動かす身振りをして口唇を舌打ちする。 | .114 | .159 | .243 | .097 | .289 | .077 | .115 | .061 | .107 |
| T13 | “ナイナイ”とか“どこにいったんだろう”を示すのに首をかしげる。 | .115 | .453 | .200 | .258 | .565 | .181 | .107 | －.111 | .376 |
| T14 | 絵本を見ていて「___はどれ？」と問われるとその絵を指さしますか。 | .219 | .402 | .273 | .284 | .436 | .344 | .227 | .036 | .362 |
| U 1 | イナイナイバーをする。 | .512 | .258 | .184 | .363 | .122 | .314 | .473 | .053 | .341 |
| U 2 | オツムテンテンをする。 | .329 | .385 | .279 | .335 | .245 | .221 | .255 | －.029 | .175 |
| U 3 | ボールをころがすとかえしてくる。 | .496 | .171 | .355 | .402 | .229 | .492 | .142 | .111 | .327 |
| U 4 | おいかけっこをする。 | .411 | .267 | .280 | .319 | .344 | .386 | .134 | .009 | .286 |
| U 5 | 歌う。 | .115 | .608 | －.016 | .383 | .563 | .107 | .020 | .079 | .335 |
| U 6 | 踊る。 | .393 | .506 | .158 | .436 | .468 | .248 | .358 | －.030 | .441 |
| ＊T5は11－20ヶ月では全員に出現していたので相関係数は算出されなかった。 | 寄与率 | 32.0 | 5.0 | 2.2 | | 26.3 | 5.6 | 3.2 | 2.3 | |

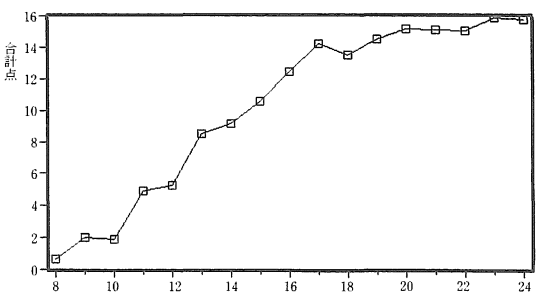


Fig.1　事物への慣用的身振りの合計点（V11を除く）

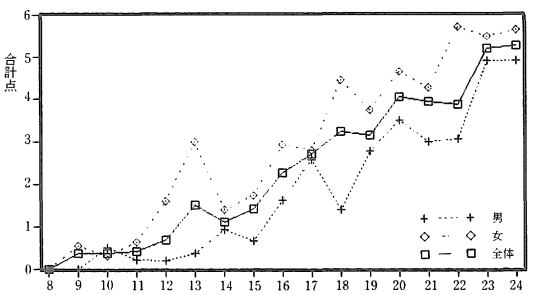


Fig.2　人形への身振りの合計点（W1＋W2＋W4＋W5＋W8＋W9＋W12）

るので’ゲーム’と’身振りでのコミュニケーション’を一緒にして8－16ヶ月と11－20ヶ月のデータについて別々に因子分析をおこなった。項目間の相関行列を求め，主因子法により因子分析しバリマックス回転した。8－16ヶ月は3因子が，11－20ヶ月は4因子が抽出された。その結果をTable 8に示した。両年齢群とも解釈可能なのは2因子であった。8－16ヶ月では第一因子で全分散の32%が説明された。.400 以上の因子負荷量の項目から因子の解釈をこころみてみる。第一因子ではわたす（T2），みせる（T1），指さし（T3），イナイイナイバー（U1），おじぎ（T10），ボールでのやりとり（U3），バンザイ（T11），バイバイ（T4），おいかけっこ

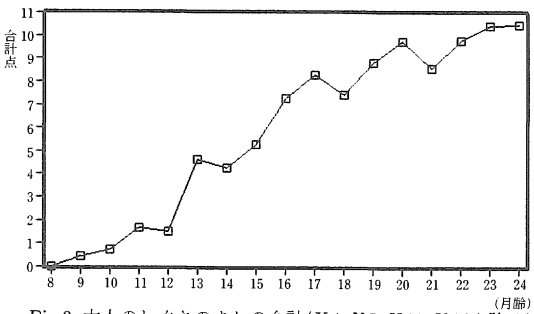


Fig.3 大人のしぐさのまねの合計(X4, X5, X11, X16を除く)

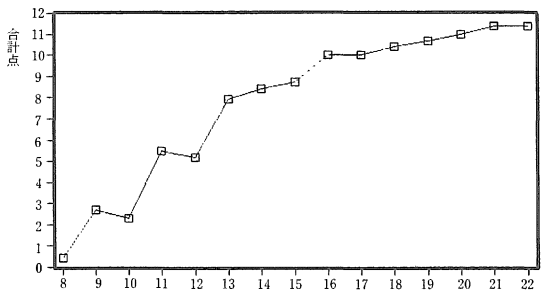


Fig.5 身振りでのコミュニケーションの合計点 (T5, T12を除く)

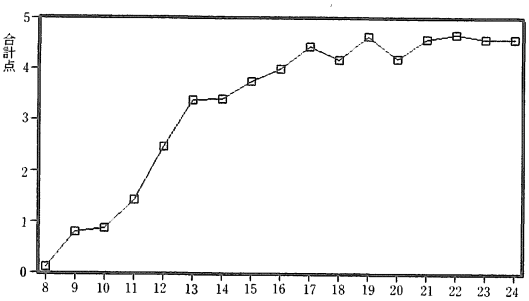


Fig.4 ゲームの合計点(U1+U2+U3+U4+U6)

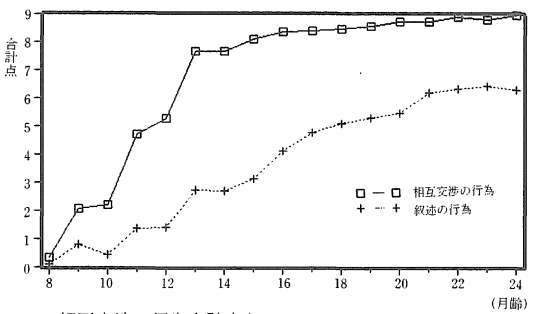


Fig.6 相互交渉の行為合計点(T1+T2+T3+T4+T10+T11+U1+U3+U4) と
叙述の行為合計点 (T7+T8+T9+T14+U5+U6)

(U4) の項目に高い負荷があり「相互交渉の行為」と命名した。第二因子は"シーッ"の身振り (T8), 踊る (U6), うなずいて"はい"を示す (T7), 歌う (U5), , "ナイナイ"とか"どこにいったんだろう"を示すのに首をかしげる (T13), 絵本への指さし (T14) に高く負荷し, 全分散の5.0 %が説明され, 「叙述の行為」と命名した。11−20ヶ月での第一因子は8−16ヶ月で抽出された第二因子の「叙述の行為」の項目に高く負荷し (T8, T7, T13, U5, U6, T14, T9), 全分散の26.3%が説明された。第二因子は逆にT3, U3, T4, T2 の相互交渉をあらわす項目に高く負荷し, 全分散の5.6 %が説明された。 両年齢群とも同じ二因子が抽出されたが低い年齢では第一因子が「相互交渉の行為」, 高い年齢では第一因子が「叙述の行為」であった。

**(4) 各領域毎の合計点の年齢推移**

8−20ヶ月で項目−総得点の相関が.400以下の項目を除き, 各領域毎に合計点を算出し, Fig. 1−Fig. 5に示した。

'事物への慣用的身振り'ではV11 を除いて合計点を算出した。年齢推移をみると (Fig. 1), 10−11, 12−13, 15−16−17ヶ月と有意に増加し, 17ヶ月で14.23 に達し, その後はわずかな増加である。'人形への身振り'は出現率が3歳になっても80%に達しなかった6項目を除いて合計点を算出し, 年齢推移をみると (Fig. 2), 徐々に得点は増加し, 22−23ヶ月で有意な増加があり23ヶ月で5.2 に達しそれ以降の上昇は少ない。'人形への身振り'はすべての項目で女児で出現率が高かったので男女別の合計点の年齢推移もFig. 2 に示した。男女差の大小は月齢で違いはあるが, 10ヶ月以外すべての月齢で女児が高かった。

'大人のしぐさのまね'も3歳までに80%の出現率に達しなかった4項目を除き合計点を算出し, 年齢推移 (Fig. 3) をみると12−13, 15−16, 18−19ヶ月で有意な得点の増加があり20ヶ月で9.75に達し, その後はわずか

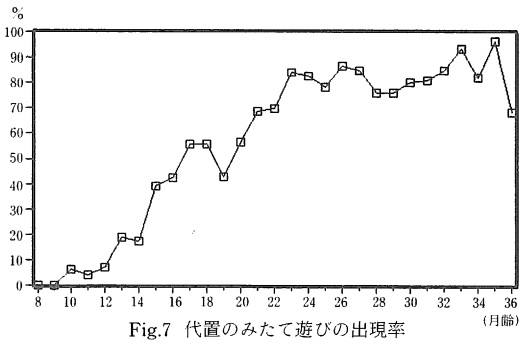

Fig.7 代置のみたて遊びの出現率

な増加である。

'ゲーム'は8－20ヶ月で項目－尺度得点の相関の低かったU5（歌う）を除き合計点を算出し年齢推移をみると（Fig. 4），10－11－12－13ヶ月と有意に増加し，17ヶ月で4.44に達しそれ以降の上昇は少ない。

'身振りでのコミュニケーション'の領域はT12（パクパクと口を動かす身振り）と，T5（だきあげてもらいたくて腕を上にのばす）の2項目を除き合計得点を算出するとFig. 5に示すように8－9，10－11，12－13，15－16ヶ月で得点の有意な増加があり，16ヶ月以降はそれほど大きな得点増加はない。

'ゲーム'と'身振りでのコミュニケーション'の領域を一緒にして因子分析した結果から得られた「相互交渉の行為」と「叙述の行為」の年齢推移をみた（Fig. 6）。「相互交渉の行為」は8－16ヶ月で第一因子に高く負荷した，みせる（T1），わたす（T2），指さし（T3），バイバイ（T4），おじぎ（T10），バンザイ（T11），イナイイナイバー（U1），ボールころがし（U3），おいかけっこ（U4）の項目で構成された。「叙述の行為」は11－20ヶ月で第一因子に高く負荷した，うなずいて"はい"を示す（T7），"シー"のみぶりをする（T8），"チョーダイ"の身振りをして物をほしがる（T9），"ナイナイ"とか"とこにいったんだろう"を示すのに首をかしげる（T13），絵本をみていて「_____はどれ？」と問われるとその絵を指さす（T14），歌う（U5），踊る（U6）の項目で構成された。「相互交渉の行為」は8－9，10－11－12－13ヶ月で得点の有意な増加があり13ヶ月以降の得点の増加は少ない。「叙述の行為」は10－11，12－13，15－16、20－21ヶ月で得点の有意な増加があり21ヶ月以降の得点の増加は少ない。相互交渉が先に出現し13ヶ月で天井効果を示した後，叙述の行為が発達してくることを本研究の結果は示している。'身振りでのコミュニケーション'と'ゲーム'を一緒にし「相互交渉の行為」と「叙述の行為」の2つの下位領域をもうけたほうが身振りの内容をより明確にし，かつ発達的変動をより明確に把握することができる。この日本語版での因子分析の結果は単に日本語の特質によるものではなく，インベントリーの本来あるべき領域構成を示しているのではないだろうか。

あるものを他のものにみたてた'代置のみたて遊び'をする子どもの出現率の年齢推移を算出しFig. 7に示した。10ヶ月ではじめて出現し，13ヶ月児で18.8%，16ヶ月児で42.3%，20ヶ月で56.5%，23ヶ月で84.0%，33ヶ月で93.5%に達しているが，36ヶ月では68.4%である。みたてる事物としてあげた積木，箱，砂，紙，ボウルにたいしての36ヶ月までの出現率の平均値は箱が42.1%，砂が39.5%，ボウルが36.3%，積木が35.9%，紙が25.93 %であった。各事物の代置とその他の代置があるかいなかで1，0とし，一人の子どもの代置の合計数の平均数をみると16ヶ月までが1以下，17ヶ月から21ヶ月までが2以下，22ヶ月から30ヶ月までが3以下で，31ヶ月以上は3を越えていた。一人の子どもが行う代置の種類も年齢に伴い上昇している。一才以前の子供の代置の内容をみると10ヶ月で代置の出現があるとした1名は積木，あき箱を楽器に，砂，紙を食べ物に，洗面器をかぶるものにみたてている。11カ月児の1名は積木を食べ物，あき箱を車・おふろ・いす，洗面器をおふろ・いすにみたてている。12カ月児の1名は歯ぶらしで髪をとかす，鉛筆でものを食べるまねをするの記述が親によりなされている。これらの記述には歯ぶらしで髪をとかすのように用途の誤用がふくまれていたり，事物の用途的使用もある。またみたて遊びは，あそび相手のまねで出現しているものもあり，本当に代置がなされているか疑問も残る。観察場面において代置が出現していると判定する際は，はっきりと代置されているものの言語化がなされたり，文脈から代置とはっきりわかる場合であった（Ogura, 1991）。年長児の代置の例をあげると36ヶ月児の1名は積木をお家・トンネル，あき箱をぬいぐるみ・オモチャの家，砂を山，紙を飛行機・鉄砲，洗面器を人形のお風呂，ブロックをロボット・ロケット・飛行機に，なん冊か本をたたせてお店屋さんにみたてる，もう1名の例をあげると，あき箱を車・家，砂をだんごに，紙をやね・かさ・毛布に，洗面器を椅子・おわんに，本をたててトンネルに、ソファーをブルートレインにして汽車ごっこ，家庭用ジャングルジムにタオルとかかけて家ごっこなど構成遊びなどのなかで高度な代置をおこなっている。

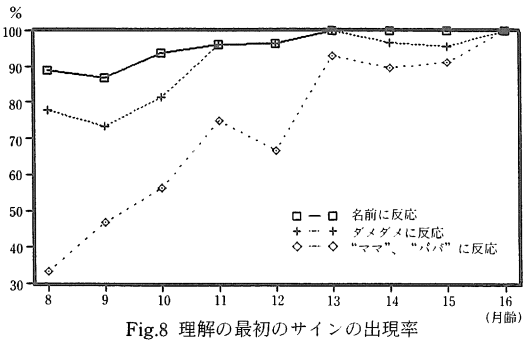


Fig.8 理解の最初のサインの出現率

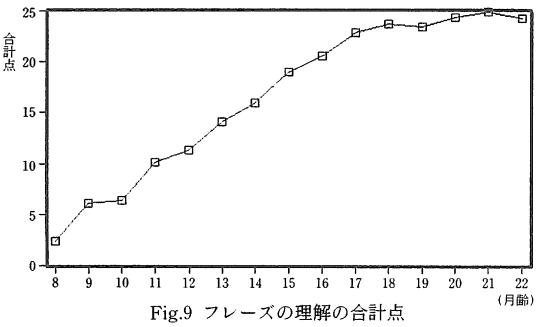


Fig.9 フレーズの理解の合計点

'代置のみたて遊び'は米国版は代置する事物の提示がなく自由記述である。日本版のように文章完成のような形をとったほうが親は想起しやすく，また記入しやすい考えられる。事物の代置はMorehead & Morehead (1974) によれば，真の表象であり言語発達との強い関連が報告されている(Casby & Ruder, 1983; Ogura, 1991)。

以上，「行為と身振りの部」について各領域の項目と適用年齢について検討した。3歳になっても出現率の低い項目，早期から出現率が高く年齢変化の認められない項目，項目－尺度得点の相関の低い項目は改訂版作成の段階で削除されるべき項目である。米国版ではこのような作業が行われていないので，出現率の低い項目もふくまれている。「行為と身振りの部」の適用年齢は'人形への身振り'の領域と'代置のみたてあそび'が23ヶ月まで得点の上昇がみられるので米国版のように8－16ヶ月という狭い範囲にするのでなく，もうすこし広げる必要がある。

1歳半健診が自治体により実施され，沢山の言語発達の遅れたこどもが早期に発見されるようになった。このような子ども達の前言語能力，相互交渉性，模倣，事物

Table 9 フレーズの理解の項目－総得点（その項目を除いた）の相関と$\alpha$係数

| 項目NO. | 項目内容 | 相関 (8－16)* | 相関 (11－20)* | 相関 (8－20)* |
|---|---|---|---|---|
| RI1 | マンマほしい？ | .527 | .374 | .547 |
| RI2 | ネンネする？ | .644 | .568 | .679 |
| RI3 | 気をつけて | .486 | .557 | .560 |
| RI4 | シーッ・静かに | .531 | .617 | .590 |
| RI5 | おててパチパチ | .563 | .328 | .528 |
| RI6 | おむつ（パンツ）かえようね | .625 | .705 | .716 |
| RI7 | こっちへおいで | .452 | .325 | .473 |
| RI8 | お父さん（パパ）がお家に帰ってきたね | .574 | .493 | .589 |
| RI9 | もっとほしいの？ | .572 | .582 | .646 |
| RI10 | してはダメ！ | .581 | .485 | .620 |
| RI11 | さわってはダメ！ | .517 | .513 | .577 |
| RI12 | おきなさい | .655 | .716 | .725 |
| RI13 | お母さん（ママ）にちょうだい | .514 | .404 | .577 |
| RI14 | スキスキして | .444 | .535 | .596 |
| RI15 | チュッして | .454 | .548 | .612 |
| RI16 | ＿＿＿をとってきて | .630 | .744 | .766 |
| RI17 | いい子ね | .647 | .666 | .702 |
| RI18 | じっとしてなさい | .502 | .585 | .584 |
| RI19 | バイバイして | .445 | .353 | .468 |
| RI20 | こっちみて | .539 | .610 | .585 |
| RI21 | お口あけて（アーンして） | .408 | .305 | .445 |
| RI22 | すわって | .674 | .653 | .729 |
| RI23 | ペッペッしなさい | .632 | .684 | .737 |
| RI24 | やめなさい | .617 | .614 | .668 |
| RI25 | ねんねする時間よ | .622 | .668 | .706 |
| RI26 | ボールポンして | .634 | .637 | .711 |
| RI27 | ブーブーのりたいの？ | .676 | .745 | .768 |
| $\alpha$係数 (ケース数) | | .933 (162) | .933 (213) | .950 (248) |

＊月齢

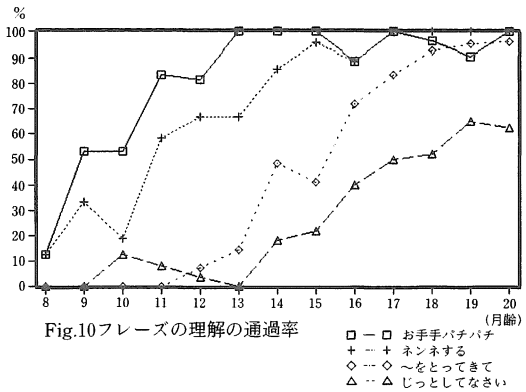

Fig.10フレーズの理解の通過率

操作，象徴あそびの能力を評価し，言語能力の基盤がどのように発達しているかあきらかにすることが重要である。本インベントリーを用いて親の報告からこれらの能力を評価することができることが，上記の結果から示された。

**（II）ことばの部**

**出現率と内的整合的信頼性**

**（1）理解の最初のサイン**

名前がよばれたとき反応する，“ダメダメ”に反応する，“お母さん（ママ）だよ”，“お父さん（パパ）だよ”と言われた時父母をさがすの3項目の出現率をFig. 8に示した。前者2項目は8カ月ですでに80%前後の通過率があった。最後の項目は10カ月で56.3%，13カ月以降はほぼ90%以上の通過率であった。これらの項目は米国版ではInfant版の最初にでてくる項目である。親が気持ちよくインベントリーにとりかかれるようにとの配慮から殆どすべての子どもが通過する項目を選んだとのことである。日本版は動作の部を先にすることにより親のとりかかりがスムーズになるようにした。

**（2）フレーズの理解**

'フレーズの理解'の項目は27項目からなる簡単な言葉の理解についての項目で構成されている。各項目とその項目を除いた尺度得点との相関は，8－16ヶ月と8－20ヶ月はすべて.400以上でα係数は8－16ヶ月が.933，8－20ヶ月が，.950であった（Table 9）。11－20ヶ月は，α係数.933で，RI1（マンマほしい？），RI5（おててパチパチ），RI7（こっちへおいで），RI19（バイバイして），RI21（お口をあけて）が項目－総得点の相関が.400以下であった。これらの項目はあとにのべるように11ヶ月頃に80%の出現率があり，低い年齢の子どもに適した項目である。フレーズの理解の合計点の月齢変化をFig. 9に示した。月齢に伴い上昇し，17カ月以降の上昇はわずかであった。Fig. 10に通過率の月齢変化を示す代表的な項目として3つの項目をとりあげ，各項目の通過率を示した。11，12カ月で80%以上の子どもが通過している項目は，RI5（おててパチパチ），RI1（マンマほしい），RI19（バイバイして），RI21（お口あけて）の項目があった。これらは「ゲームや食事に結びついた項目」であった。13－14カ月で80%以上の子どもが通過している項目は，RI2（ネンネする），RI8（お父さん（パパ），お母さん（ママ）がお家に帰ってきたね），RI3（お母さん（ママ）にチョーダイ）のような「日常生活で繰り返しになっていることの理解の項目」であった。16－17カ月で80%の通過率に達する項目はRI16（＿＿＿をとってきて），RI23（ペッペッしなさい），RI26（ボールポンして），RI15（チュ

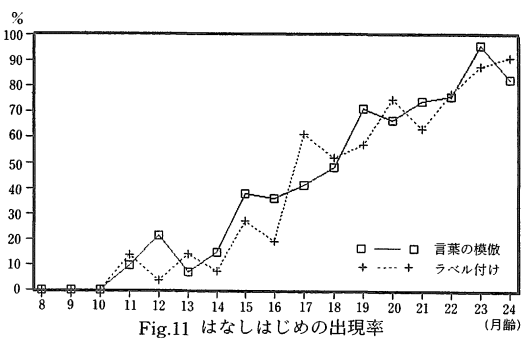

Fig.11 はなしはじめの出現率

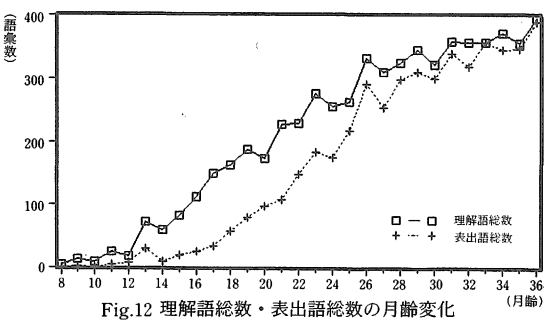

Fig.12 理解語総数・表出語総数の月齢変化

Table 10 語彙チェックリストの理解と表出における下位カテゴリー得点－総得点（そのカテゴリーを除いた）の相関とα係数

| カテゴリー | 理解相関 | | | 表出相関 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | (8－16)* | (11－20)* | (16－30)* | (8－16)* | (11－20)* | (16－30)* |
| 擬音語・幼児語 | .665 | .747 | .713 | .487 | .727 | .769 |
| 動物の名前 | .798 | .804 | .807 | .849 | .843 | .885 |
| 乗り物 | .762 | .755 | .762 | .684 | .672 | .801 |
| おもちゃ | .806 | .823 | .764 | .658 | .723 | .879 |
| 食べ物と飲み物 | .777 | .817 | .878 | .564 | .758 | .904 |
| 衣類 | .921 | .906 | .859 | .885 | .876 | .901 |
| 体の部分 | .907 | .911 | .833 | .870 | .897 | .892 |
| 家具と部屋 | .901 | .896 | .864 | .882 | .862 | .898 |
| 家庭用品 | .904 | .927 | .892 | .874 | .800 | .921 |
| 戸外のもの | .897 | .910 | .917 | .857 | .790 | .940 |
| 人々 | .810 | .816 | .798 | .632 | .752 | .859 |
| 日課とあいさつ | .783 | .769 | .753 | .733 | .823 | .855 |
| 動作語 | .926 | .924 | .889 | .898 | .830 | .928 |
| 時間 | .659 | .673 | .730 | .848 | .645 | .816 |
| 性質 | .818 | .847 | .893 | .719 | .822 | .937 |
| 代名詞 | .808 | .730 | .714 | .845 | .578 | .745 |
| 質問 | .496 | .571 | .736 | .852 | .605 | .815 |
| 場所・位置 | .733 | .725 | .775 | .838 | .767 | .856 |
| 数量 | .714 | .753 | .758 | .810 | .758 | .867 |
| α係数（ケース数） | .949 (190) | .952 (238) | .955 (361) | .917 (190) | .943 (238) | .965 (361) |

＊月齢

して），RI6（おむつ（パンツ）かえようね），RI17（いい子ね），RI9（もっとほしいの？），RI27（ブーブーのりたいの？）のような「指示の理解項目」であった。17カ月でも約500％の通過率しかなく，その後も上昇がみられなかった項目としてRI3（気をつけて），RI4（静かに），RI18（じっとしてなさい）の項目があった。これらの項目は「行動制止の項目」で，この月齢においては理解がむつかしい項目ともいえるし，日本の母親は違った形で行動を制止しているのかもしれない。

**（3）はなしはじめ**

"ことばや文の一部あるいは全部のまねをしますか"，"物の名前をいってまわりますか"の項目の年齢推移をFig11に示した。まねは18ヶ月で48.2％，21ヶ月で74.1％，24ヶ月で82.6％，27ヶ月以降は90％以上の出現率である。ラベル付けの年齢推移は16ヶ月で19.2％，17ヶ月で急激に上昇し61.1％，23ヶ月で88.0％に達している。

**（4）語彙チェックリスト**

語彙チェックリストは語彙の理解と表出の可否の他に，子どもがその語彙についてどのような言い方をするのか，又母親がどのような言い方をするのかの記述を求めたために記入者に多大の負担をかけた。そのため語彙チェックリストへの無記入も非常に多かった。また本研究では，無記入も，'見たり聞いたりしたことがない'の欄への○も理解，表出にたいして，×と同じ扱いになっている。このように種々問題もあるが，ここでは記入者が○をつけた数値からだけ結果をみてみる。理解と表出における8－16，11－20，16－30ヶ月における各カテゴリーの得点と総語彙数の相関及びα係数をTable 10に示した。

Table 11 チェックリストの50％の語彙が理解可能になった月齢

| 月齢 | カテゴリー |
|---|---|
| 16ヵ月 | 日課とあいさつ |
| 18ヵ月 | 擬音語、おもちゃ、体の部分 |
| 19ヵ月 | 人々 |
| 21ヵ月 | 食物と飲物、衣類、家庭用品、動作語 |
| 23ヵ月 | 動物の名前、乗物 |
| 24ヵ月 | 性質 |
| 26ヵ月 | 家具と部屋、戸外のもの、質問、場所、数量、 |
| 29ヵ月 | 時間、代名詞 |

Table 12 リストの50％の語彙が表出可能になった月齢

| 月齢 | カテゴリー |
|---|---|
| 19ヵ月 | 擬音語 |
| 22ヵ月 | 日課とおもちゃ |
| 23ヵ月 | 食物と飲物、体の部分 |
| 24ヵ月 | 動物の名前、おもちゃ |
| 25ヵ月 | 乗物、人々、数量 |
| 26ヵ月 | 衣類、家庭用品、戸外のもの、動作語、性質 |
| 29ヵ月 | 家具と部屋、時間、場所 |
| 32ヵ月 | 代名詞 |
| 36ヵ月以上(？) | 質問 |

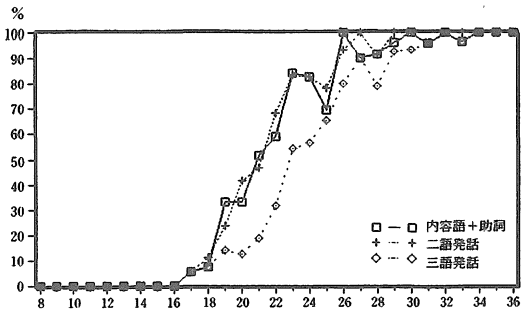


Fig.13 語結合の項目の通過率

すべての年齢範囲で理解，表出とも.917－.965の高い信頼性係数が得られた。すべてのカテゴリーで.400以下の相関はなく，一番低いのは理解では8－16ヶ月での質問の語彙の理解（.496）であった。表出では8－16ヶ月の擬音語・幼児語が低かった。各カテゴリー毎の理解語総数，表出語総数の年齢推移は紙数の都合で省略し，全カテゴリー込みの理解語総数，表出語総数の月齢推移をFig. 12に示した。凹凸はあるが理解語総数は31カ月まで上昇し，その後上昇は少なく再び36カ月で上昇している。表出語総数も凹凸はあるが，徐々に上昇している。表出語総数は，21カ月から23カ月にかけて107.9→183.4，24カ月から26カ月にかけて174.8→290.4と大きな増大があった。

チェックリストの語彙総数の30%（142.5の語彙）が理解可の月齢は17カ月，50%（237.5の語彙）が可能なのは23カ月，70%（332.5の語彙）は26カ月であった。語彙総数の30%が表出可能な月齢は22カ月，50%が可能なのは26カ月，70%は31カ月であった。

下位カテゴリー別に語彙チェックリスト総数の50%が理解可能になった月齢をTable11 に，表出が可能になった月齢をTable12 に示した。日課とあいさつ，擬音語，おもちゃ，体の部分，人々の理解は19カ月までと，はやい時期に各カテゴリーのチェックリストの50%に理解可能となっている。それに対し時間，代名詞の理解は29カ月と遅い。表出は，擬音語が19カ月で，日課とあいさつ，食物と飲物，体の部分，動物の名前，おもちゃが24カ月までにチェックリストの50%の語彙の表出を行っている。代名詞は32カ月でチェックリストの50%の語彙を表出し，時間は35カ月でもリストの40%の語彙の表出しかなくこれが最高であった。

カテゴリーの出現の順序性については子どもの概念獲得の発達，日本の文化，習慣での言語使用，チェックリストの内容等の面から今後の検討が必要である。

理解語総数と表出語総数の差は8カ月からあるが，徐々に増大し17カ月に113.8 に達し，その後20カ月までやや減少し，再び21カ月に119.7 で最高であった。その後は

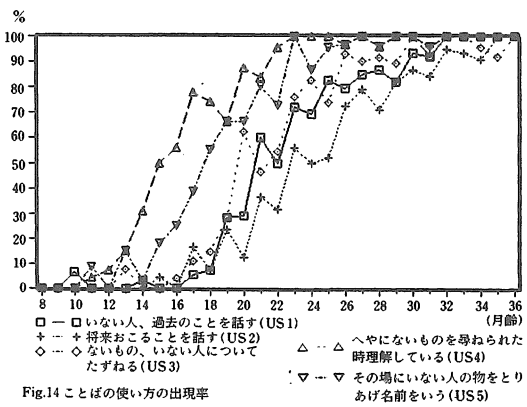


Fig.14 ことばの使い方の出現率

Table 13 ことばのつかい方の項目－総得点（その項目を除いた）の相関とα係数

| N0. | 項　目　内　容 | 相　関 (8－16)* | 相　関 (11－20)* | 相　関 (16－30) |
|---|---|---|---|---|
| US1 | その場にいない人や過去のことについてはなす。 | －.054 | .541 | .719 |
| US2 | 将来おこることについてはなす。 | .210 | .477 | .654 |
| US3 | 見つからないおもちゃや無いおもちゃ、いない人について尋ねたり、ここに現在ないものについてはなす。 | .310 | .530 | .667 |
| US4 | へやにないものを尋ねられたとき理解している。 | .300 | .502 | .489 |
| US5 | その場にいない人の物をとりあげたり、指さしてその人の名前をいう。 | .384 | .587 | .594 |
| α係数 (ケース数) | | .380 (174) | .736 (226) | .823 (350) |

＊月齢

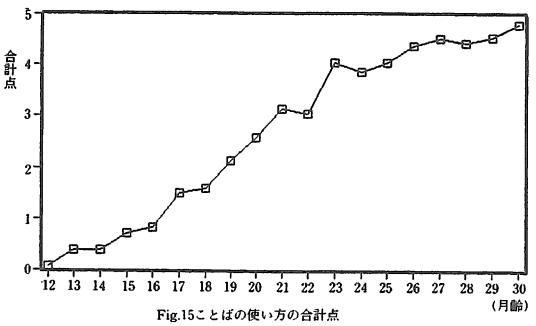

Fig.15ことばの使い方の合計点

減少している。これは表出語と理解語の差が少なくなるともいえるし，また子どもが理解できることばがリストに含まれていないためとも考えられる。

語彙チェックリストについては米国版をもとに翻訳し，さらに日本の子どもが使うことばをいれた。しかし問題も多い。無記入の多いデータは分析から除外したり，個々のことばの頻度を算出し，出現頻度の低いことばは削除したり，今後さらに分析作業が必要である。また前田・前田（1983）や大久保（1967）など縦断観察による詳細な語彙の発達研究や今回，親に記入してもらったこどもの言いかたを参考にチェックリストを改訂していくことが今後の課題である。

**（5）語結合**

これは，米国版には含まれていない日本版独自の項目である。月齢毎の通過率をFig. 13に示した。“パパと”や“おいしいね”のように言葉の後に助詞をつけた内容語＋助詞の語連鎖は17カ月に初出し21カ月で51.6%，23カ月で84%，26カ月以降は90%であった。“パパカイシャ”，“ブーブートッテ”のような二語発話は17カ月に初出し，20カ月で41.6%，22カ月で68.2%，23カ月で83.3%，26カ月以降は90%以上の子どもに出現していた。Fig. 13に示すように内容語＋助詞の語連鎖のカーブと類似していた。このことは内容語＋助詞は一語ではなく二語発話と同じ発達レベルのものであることを示している。三語発話は17カ月で初出し，22カ月で31.8%，23カ月で51.4%，26カ月で80%，29カ月以降は90%以上の子どもに出現していた。星・蓮見・石原・栗山（1979）は一女児の1歳3ヶ月から2歳まで30分間の自由遊び場面の言語分析を行い，疑似語連鎖（無意味感嘆詞＋自立語）は20ヶ月に初出し，その後頻度・種類とも横ばい，一文節文（自立語＋付属語）は21ヶ月に初出しその後，頻度・種類とも漸増，疑似二文節文（無意味感嘆詞＋一文節文）は21ヶ月に初出，その後頻度・種類とも横ばい，二文節文（自立語二語，または自立語二語＋付属語）は20ヶ月に初出しその後，頻度・種類とも漸増，三文節文は22ヶ月に初出しその後頻度・種類とも横ばいであったことを報告している。本研究の結果からすると一事例の星らの観察では多語発語が遅く出現していることがわかる。Ogura(1991）の4児の縦断観察では内容語＋助詞，感嘆語＋内容語の語連鎖の出現は14ヶ月17日－18カ月18日，非生産的二語発話は17ヶ月22日－22ヶ月26日，生産的二語発話は20ヶ月21日－25ヶ月13日で非常に個人差が大きかった。

**（6）ことばの使い方**

米国版ではこの領域はToddler 版の16－30ヶ月の項目である。各項目とその項目を除いた合計得点との相関係数，及び$\alpha$係数をTable 13 に示した。8－16ヶ月のサンプルではすべての項目の相関が.400 以下で$\alpha$係数は.386 であった。11－20ヶ月のサンプルではすべての項目で相関は.400 以上で$\alpha$係数は.736 であった。米国版の適用年齢の16－30ヶ月では.823 で3つの年齢幅で一番高かった。’ことばの使い方’の項目は高い年齢幅に適した項目である。各項目の年齢推移をFig. 14に，合計点の年齢推移をFig. 15に示した。US4（へやにないものをたずねられた時理解していますか）は15ヶ月で50%，18ヶ月で74.0%，21ヶ月で83.8%の出現率に達している。US5（その場にいない人の物をとりあげたり，指さししてその人の名前をいいますか）は15ヶ月で18.1%，18ヶ月で55.5%，21ヶ月で80.6%に達している。「過去への言及」（US1）は18ヶ月までは僅かな出現で，19ヶ月に28.5%，24ヶ月で69.5%，27ヶ月で85.0%の出現率である。「ないものへの言及」（US3）は19ヶ月で28.5%，24ヶ月で82.6%であった。「未来への言及」（US2）はこの領域の項目では一番出現率が低く，19ヶ月で23.8%，24ヶ月で50.0%，29ヶ月82.1%であった。言語の時間，空間の脱文脈化は一語発話期のおわりに生起し，子ども達の世界を表象する能力の発達を示す指標であることが多くの研究者により指摘されている（Fen-son et al.，1991a）。今後，これらの’ことばの使い方’の項目と語彙数，語結合の発達変化の関係について分析する必要がある。

そのほか日本版には米国版と同じように，”お子さんが最近いっている最も長い文を3つあげてください”という項目がある。これについては別の機会に報告したい。

「ことばの部」の適用年齢を考えると，’理解の最初のサイン’，’フレーズの理解’の多くの項目は16ヶ月ま

でに高い出現率になっている。'語結合'での三語発話は26ヶ月で80%の出現率，'ことばの使い方'の領域の「将来への言及」は29ヶ月で80%の出現率である。初期言語期の身振りから多語発話まで評価するためには米国版のように2葉にわけて作成する必要がある。言語出現に焦点をあてた乳児版（行為と身振り，理解の最初のサイン，フレーズの理解，語彙チェックリスト）と幼児初期版（ことばのつかいかた，多語発話，文法，語彙チェックリスト）をつくることが必要である。乳児版は，'代置のみたて遊び'や'人形への身振り'の出現が16ヶ月以降に増加しているので，また16ヶ月では表出語彙の出現が僅かであるので，20ヶ月頃までを適用範囲としたほうがよいであろう。現在，日本版言語インベントリーには「文法の部」が作成されていない。語彙チェックリストの整備とこの「文法の部」の作成が今後の課題である。領域間の関係，特に言語と身振りの関係や日米比較については稿をあらためて報告したい。

## 文　献


Bates, E., Bretherton, I., & Snyder, L. 1988 *From first words to grammer: Individual differences and dissociable mechanisms.* New York: Cambridge University Press.

Casby, M. W. & Ruder, K. F. 1983 Symbolic play and early language development in normal and mentally retarded children. *Journal of Speech and Hearing Research* 26, 404-411.

Dale, P. S., Bates, E., Reznick, J. S. & Morisset, C. 1989 The validity of a parent report instrument of child language at 20 months. *Journal of Child Languge,* 16, 239-250.

Dale, P. S. (in press) The validity of a parent report measure of vocabulary and syntax at 24 months. *Journal of Speech and Hearing Research.*

Fenson, L. Thal, D., Reilly, J., Vella, D. & Guisti, L, 1988 *Summary of works on the parental report language inventories norming study for 1987.* Unpublishedtest materials, San Diego State Univesity and University of California, San Diego.

Fanson, L., Dale, p. Reznick, J. S. Thal D. Bates, E, Reilly, J. S. & Hartung J. P. 1991a Draft for Technical Manual for the MacArthur Communicative Development Inventories. Personal Communication.

Fenson, L., Dale, P. Reznick, J. S. Thal D. Bates, E, Reilly, J. S. & Hartung J. P. 1991b *Technical Manual for the MacArthur Communicative Development InventoriesPreliminary Version.* Developmental Psychology Laboratory, San Diego State University.

星　三和子・蓮見　元子・石原　摩子・栗山　容子 1979 初期言語発達と象徴遊びの発生（1）：言語発達を中心として. 日本心理学会43回大会発表論文集，475.

Morehead, D. & Morehead, A. 1973 From signal to sign: a Piagetian view of thought and language during the first two years of life. In Schiefelbusch, R. L. & Lloyd, L. (eds), *Language perspective,acquisition,retardation and intervention.* Baltimore: University Park Press.

前田　富禎・前田紀代子・1983 幼児の語彙発達の研究・武蔵野書院.

Ogura, T. 1991 A longitudinal study of the relationship between early language and play development. *Journal of Child Language,*18, 273-294.

小椋たみ子・村瀬　俊樹・山下由紀恵 1991 初期言語発達に関する調査（II）. 日本発達心理学会第2回大会発表論文集，47.

大久保　愛 1967 幼児言語の発達. 東京堂.

Thal D., & Dale, P. Parental report as a language assessment tool for infants and toddlers. 1990 Paper presented at the International Conference on Infant Studies, Montreal, Quebec, Canada, April.



**付　記**

本研究の一部は日本教育心理学会第32回総会（大阪大学，1990）と日本発達心理学会第2回大会（お茶の水女子大学，1991）において発表された

本研究の資料収集にあたりまして大変お世話になりました松江市内の保育所とご記入いただいた保護者の皆様に厚く御礼申しあげます。